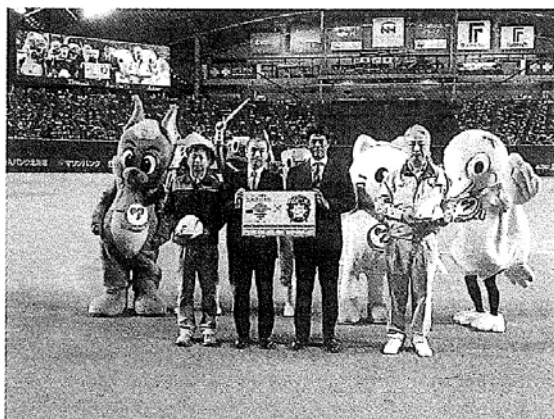


28年豪雨災早期復旧へ

開発局と北海道日本ハムファイターズは十七日、札幌で決意を表明。稲葉SCOドーム内で二十八日北海道豪雨災害の復旧支援イベントを開催した。開発局の和泉晶裕局長、二七四号日勝峠の早期復旧に向けて尽力している日勝峠災害復旧関連工事推進協議会を代表して松隈嘉和氏、日勝峠復旧工事連絡協議会を代表して中原孝行氏、北海道日本ハムファイターズの稲葉篤紀スポーツ・コミュニティ・オフィサーが参加した。

開発局と北海道日本ハムファイターズ 支援イベントで決意と連携を表明



快話し、きょう十七日の試合に合わせ、工事関係者と復旧支援イベントを開催することとした。

イベントでは、開発局の和泉局長、日勝峠災害復旧関連工事推進協議会を代表して松隈氏、日勝峠復旧工事連絡協議会を代表して中原孝行氏、球団側からは稲葉SCOが参加した。

セレモニーでは、和泉局長による豪雨災害復旧に向けた決意を表明した。

記念品を手に写真撮影に応じた左から中原氏、和泉氏、稲葉氏、松隈氏

大型ビジョンを用いた復旧支援VTR上映のほか、稲葉SCOから復旧を応援する記念品として北海道日本ハムファイターズのロゴを記載したヘルメットが手渡された。

ハム 災復工事関係者を応援

日ハム 開発局と連携しいイベント

北海道日本ハムファイターズと北海道開発局は17日、札幌ドームで2016年北海道豪雨災害の復旧応援イベントを開催した。日ハム球団からは

災害復旧工事で活躍する関係者に記念品のヘルメットが贈られた。和泉晶裕開発局長は世界一の魅力を持つ北海道を目指し「幸せあふれる地域にし

たい」と互いの連携強化を表明した。

このイベントは、道の駅などを活用した連携の取り組みに向けた共同企画の一環として実現した。同日の千葉ロッテマリーンズ戦に先立ち、和泉局長や日ハムの稲葉篤紀スポーツ・コミュニティ・オフィサー（SCO）らが参加して行われた。

今秋の開通を目指し復旧工事が進む国道274号日勝峠の工事関係者を代表して、現場で陣頭指揮を執る松隈嘉和日勝峠災害復旧関連工事推進協



和泉局長（左から2人目）が稲葉SCOや工事関係者と記念撮影した

議事会長（日高側）と、連絡協議事会長（十勝側）が参加した。



日勝峠の早期復旧応援

工事関係者招き ヘルメット寄贈

昨年8月の台風被害で通行止めが続く国道274号の日勝峠（日高管内日高町千栄—十勝管内清水町清水間、36・1キロ）の復旧工事を応援しようと、プロ野球北海道日本ハムは17日、札幌市豊平区の札幌ドームに工事担当の業者らを招き、特製の業務用ヘルメットを贈った。

球団が、国道を管轄する開発局の協力を得て実施した。ヘルメットはファイターズの英語の頭文字「F」を前面にデザインし、側面には球団と開発局のロゴマークを描いている。

贈呈式は同日の千葉ロッテ戦前に行われ、稲葉篤紀スポーツ・コミュニティ・



日本ハムの稲葉篤紀SCO（右から2番目）から贈られたヘルメットを手にする日勝峠復旧工事の担当業者ら

オフィサー（SCO）が日高町側、清水町側の各工事業者の代表者にヘルメットを1個ずつ手渡した。工事担当者は「無事故で早期開通を目指して頑張りたい」と話した。